

事例4 リズム表現「踊ろう、南中ソーラン節」

【ねらい】

○リズムに合わせて、イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

【環境構成・保育内容構成の工夫】

- 幼児が南中ソーラン節に親しめるよう、保育者自身が楽しんで踊る姿を見せる。
- 友達の考えた踊りを見たり真似たりしながら、いろいろな動きを楽しみ、自分で考える時間を十分に取る。

幼児の姿	保育者の援助
<p>幼児は、保育者が踊る姿に興味をもって見る。</p> <p>保育者の動きを真似て踊る幼児やじっと見ている幼児がいる。</p> <p>A児：「お魚いっぱい獲れるように大きく手を広げたらいい。」</p> <p>B児：「お魚いっぱいやから力入れる。」</p> <p>C児：「思いっきり引っ張る。」</p> <p>幼児がそれぞれに動きを意識したり、掛け声が大きくなったりする。</p> <p>友達の踊りを見ながら、互いに動きを真似する。</p> <p>なかなか踊ろうとしなかった幼児が少しずつ踊り始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 保育者は幼児に「南中ソーラン節」が魚をたくさん獲っている踊りだということ話す。 • 保育者が踊って見せながら、一つ一つの動きの意味を伝え、幼児が繰り返し踊れるようにする。 • イメージがふくらむよう、お互いの踊りを見合う場をつくる。 • 「手がよく伸びてるね。」「元気いっぱいの声だね。」など、それぞれの踊りのよいところを具体的に認める。

【接続期を意識して配慮するポイント】

- いろいろな動きを試せる時間をつくる。
- 幼児自らがやろうとする気持ちを認め、意欲的に活動できるようにする。



【児童期の学力の3つの要素】

主体的に学習に取り組む態度



「考えようとする力」につながる学び

《就学前施設・5歳児》（2月）

事例5 積木遊び「みんなでまちを作ろう」

【ねらい】

○積木を使ってイメージを豊かにし、様々な造形活動を楽しむ。

【環境構成・保育内容構成の工夫】

○一人一人の幼児が家を作る。

○まちが出来上がっていく様子を見守り、家だけを作っている幼児にはイメージが広がるように、写真や絵などを用意する。

○中央に協力してお城をつくり、みんなのまちを作り上げる。

幼児の姿	保育者の援助
<p>A児：「Bちゃん、一緒にマンションを作ろう。」 B児：「うん、同じマンションに住んでるもんね。」</p> <p>C児：「階段を作りたいけど難しい。」 D児：「この四角の積み木をこうやって重ねていくと上手くいくよ。」</p> <p>E児：「もうお家できた。」 F児：「家と家の間に道を作ってつなげていこう。」 E児：「そうしよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始める前に、クラス全体でイメージが共有できるように話し合いの場を設定する。 ・幼児が実際の自分の家や街と重ねてイメージしていることを受け止め、共感する。 ・それぞれが作っているものを認める。 ・イメージができていてもそれを形にできないもどかしさを理解し、考えるきっかけとなるようD児の作っているものを紹介する。 ・E児が、F児の言葉を聞いて、遊びを広げようと意欲的に作り始めたので見守る。

【接続期を意識して配慮するポイント】

○幼児が目的にあった積木を選び、試せるように、色や形、大きさなど様々な積木を用意する。



【児童期の学力の3つの要素】

主体的に学習に取り組む態度



事例6 国語科「うたにあわせて あいうえお」

【ねらい】

- 語や文のまとまりや内容，言葉のおもしろさを楽しみながら声に出して読むことができる。
- 音節と文字の関係に気づくことができる。

【環境構成・教育内容構成の工夫】

- リズムカルにテンポよく「あいうえおのうた」をみんなで声をそろえて読む。
- 1人で考えた後，友達と話し合う時間を確保する。

児童の姿	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> ○「あいうえおのうた」から知っている言葉を見つける。 ○様々なやり方で唱えて遊ぶ。 ○言葉を確認したり言葉のイメージを膨らませたりする。 ○「あいうえおのうた」の詩の仕組みに気が付く。 ○「あいうえおのうた」をみんなで読む。 ○仕組みを活用して学級独自のあいうえおのうたを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つぶやきに耳を傾け，共感的に受け止める。 ・掛け合い，声の大きさ，声の表情などを認めていく。 ・同じことに気づいた児童もともに褒める。 ・隣や周りの人と相談する時間をとる。 ・口をはっきり開けて読むことを促す。 ・児童の自由な発想を生かし，クラス独自のうたができるように支える。

【接続期を意識して配慮するポイント】

- 児童の様々なつぶやきを共感的に受け止め，学習につなげる。
- 発言時のルールやしっかり人の話を聞くなどの学習規律が身につくよう，児童に分かりやすい言葉で伝える。
- 授業時間は，入学当初，45分にこだわらず，児童の集中できる時間に応じて対応し，1人で考える時間と友達と話し合う時間を設定しながら，授業を進める。



【児童期の学力の3つの要素】

- 基礎的，基本的な知識・技能
- 課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等

事例7 縄跳び「Sくんにわかりやすいと思ったんだ」

【ねらい】

- 異年齢活動を通し、友達の思いを感じ、思いやりの気持ちをもつ。
- 幼児が自分の思い通りにいかないことが起こった時、自分たちで解決しようとする。

【環境構成・保育内容構成の工夫】

- 共通の目標がもてるように、幼児同士で考える時間を十分にもつ。
- 幼児が考えていることをクラスに広げ、みんなで考える場がもてるよう言葉掛けをする。

子どもの姿	保育者の援助
<p>年長児と年少児で遊ぶペア活動で縄遊びをする。年長A児と年少S児は、二人で一緒に長縄をくぐるが、タイミングがつかめずくぐれない。A児は手をつないで、「一緒にくぐろうね。」と声をかけ、くぐろうとしたがS児が手を離し、くぐれない。A児は「ああ。」と言って残念なような表情でS児を見ていた。</p> <p>A児はS児に「頑張れ。」と繰り返し言う。数回失敗した後、A児はくぐるときに「今だ。」と言い始める。S児もA児の声に合わせて走ろうとするが、タイミングがつかめない。</p> <p>S児に対して周りの幼児も「今だ。」と言い出す。A児は「今だって言ったら、すぐに走って。」と説明し、繰り返すうちに、ついにくぐれた。</p> <p>「やったー。」と二人と一緒に周りの幼児も喜んだ。</p> <p>「Sくんにわかりやすいと思ったんだ。」と言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりが深まるようペアの友達は決めておく。 ・A児の表情から、なんとかS児と一緒にくぐりたい気持ちを感じた。A児も以前なかなかうまくくぐれなくて悔しい思いを味わっていたので、しばらく見守る。 ・うまくくぐれないので、保育者が周りの幼児に聞こえるように「なかなかくぐれないみたいだね。」と言う。 ・周りの幼児がA児たちの様子に気付いたので、見守る。 ・A児に「なぜ、『頑張れ』から『今だ』に言葉を変えたの。」と聞く。

【接続期を意識して配慮するポイント】

- 目標を達成するために、5歳児が年下の友達のことを理解し、自らやろうとする気持ちを確認する。
- 選べる環境、試せる環境と時間をつくる。



【児童期の学力の3つの要素】

課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等



「伝え合おうとする力」につながる学び

《就学前施設・5歳児》（11月）

事例8 ごっこ遊び「他のお店にも行きたいな」

【ねらい】

○お店屋さんごっこを通して、互いの思いや考えを認め合いながら、自主的に遊びを進め、充実感を味わう。

【環境構成・保育内容構成の工夫】

- お店ごとにグループで、役割を考え進める。
- 幼児自身が「困った」と感じて、自分達で解決しようと思っていることを大切にし、クラスの共通の話題にする。
- 考えたことを互いに伝え合い、分かり合いながら、考える場や機会を積み重ねる。

幼児の姿	保育者の援助
<p>ゆり組だけで店員やお客さんになり遊ぶ。 アクセサリー屋のA児：「B君がペンダントを勝手に取った。」 B児：「アクセサリー屋さんに誰もいなかったから、お金を置いてペンダントをもらった。」 A児：「別のお店に買い物に行ってたんだよ。勝手に取らないで。」 他児：「勝手に取ったB君は悪いけど、お店に誰もいないのも困る。」 A児：「交代で買い物に行くことにしたら。」 と同じ店の友達と話していた。 他の店の幼児「そうしたらいいと思う。」 と遊びのルールが決まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の物を勝手に持って行かれて困っている気持ちを聴く。 ・A児とB児の言い分を受け止め、周りの幼児にも考える場をもつ。 ・他の幼児にも同じような状況になり困ることに気付かせる。 ・相手の気持ちになって考え話す幼児を認め支える。 ・みんなが考えを理解し受け止めているかを確認する。 ・遊びが楽しくなる共通のルールとして伝え合い遊びを進めていくよう見守る。

【接続期を意識して配慮するポイント】

- 友達の思いに気付き、柔軟に受け入れる心が育つよう、友達や教師から認められたり、励まされたりする経験を大切にする。
- 意欲的に生活が送れるように、ルールを守ることや、遊びが楽しくなることや、困った時には友達と一緒に考え、乗り越えていく経験ができるようにする。



【児童期の学力の3つの要素】

課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等



事例9 積木遊び「どうしたら一緒にできるかな」

【ねらい】

- 困ったことやしてほしいことを自分で話す。
- 友達が困っていることを自分のこととして受け止める。

【環境構成・保育内容構成の工夫】

- イメージが膨らむように色々な形の積み木や素材を準備する。
- 集中して遊べるよう、空間を広くとる。
- ねらいである「友だちと一緒に作ること」を約束として伝えておく。
- 見通しを持って遊べるよう、あらかじめ終了時間を知らせておく。

幼児の姿	保育者の援助
<p>積木を使ってグループで何を作るか話し合う。 A児は一人だけグループに入らない。 保育者が尋ねるとA児は「マンションを作りたい。」と言う。</p> <p>保育者の投げかけに答える幼児はいない。</p> <p>何人かの幼児が「一緒に飛行場作ろう。」「お城を作ろう。」と誘うがA児は「マンションがいい。」と言う。 B児が「じゃあ、僕たちの飛行場の傍にあるマンションにしたら。」と提案する。 周りの幼児は「なるほど。」「それいいな。」と賛成する。 保育者がA児に尋ねると「そうする。」と納得し、飛行場グループに入り、遊びを進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • A児はマンションを作りたいが、仲間が見つからずに困っているのがわかり一緒に考える。 • 保育者はクラス全体に「誰かマンションと一緒に作ってもいいよっていう人いるかな。」と投げかける。 • それぞれのグループのテーマが決まってしまう、一緒に作ることが出来ない様子であったが、困っているA児を何とかしてあげたいという雰囲気があったので、しばらく幼児に任せ、見守る。 • A児も一緒にできるようにと考え、声をかけたB児を認める。 • 幼児の言葉に保育者も共感する。 • A児と一緒に作ろうとしている気持ちを支えていく。

【接続期を意識して配慮するポイント】

- 選んだり、試したりする環境と時間をつくる。
- 幼児が考えるきっかけをつくり、自分たちで解決できた満足感を味わわせる。



【児童期の学力の3つの要素】

課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等



事例10 生活科「学校のヒミツをみんなに伝えよう」

【ねらい】

○学校の施設，学校生活を支えている人々について，見たことや考えたことを，クラスのみんなに伝えることができる。

【環境構成・教育内容構成の工夫】

○活動意欲を高めるために，その場の様子が簡単に写真で記録でき，そのまま発表に使えるタブレットを活用する。

○仲間意識を高め，協力・相談することの大切さを知る機会となるよう，グループごとに探検する。

児童の姿	教師の支援
<p>○前時の振り返りから学習課題の確認をする。</p> <p>○グループごとに探検する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を撮る。 ・いろいろな部屋の様子を見る。 ・先生に分からないことを質問する。 <p>○発表の準備をする。</p> <p>○見つけたことを発表する。タブレットをテレビに順番に投影する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの使い方をおさらいし，時間設定と注意を確かめる。 ・調べた内容を発表する場があることを事前に知らせる。 ・グループで，写真を撮り，各部屋の様子を見たり，先生に質問したりすることを促す。 ・友達に教えたいポイントが話せているか，個別に声をかけて支援する。 ・質問やさらに生まれた疑問を整理し，次の学習につなげる。



【接続期を意識して配慮するポイント】

○自信をもって発表ができるように，活動中や発表の打ち合わせなど話し合う時間を十分に確保する。

○友達の発表を聞き，認め合うことで，良いところは自分の発表に生かすことができる。



【児童期の学力の3つの要素】

主体的に学習に取り組む態度

